

# 家族って何だろう？

## 1 本時の目標

家族が互いに立場や役割を理解し、家族の一員として家族関係をよりよくする方法を考えることができる。

## 2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
事例をもとに家族の立場や役割について関心をもって取り組んでいる。			家庭や家族の基本的な機能について理解している。

## 3 展開例

時間	生徒の活動	教師の働きかけ、評価
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○代表生徒がさおりの家族について起こった出来事を演じる。（ワーク1）</li> <li>○この後、この家族はどのようにしたのか、一人一人が考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ドラマを見て、さおりの家族で起こった出来事について課題を見つけさせる。</li> <li>○自分なりにこのドラマのその後を想定させる。</li> </ul>
	<p><b>課題設定</b>      <b>学習課題</b></p> <p>それぞれの立場で、家族の一員として家族関係をよりよくする方法を考えよう。</p>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班ごとに4人家族の役割分担をする。</li> <li>○この後さおりの家族がどのような行動をとったのかを、班ごとに話し合う。意見を出し合い、吹き出しにせりふを記入してストーリーの続きを考える。（ワーク2）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自が担当するそれぞれの家族の立場になって、その時の気持ちや置かれている状況を踏まえて意見を述べるように支援する。</li> <li>○さおりの家族の関係をよりよくするための方法を取り入れたストーリーにすることを課題として考えさせる。</li> </ul> <p>☆事例をもとに家族の立場や役割を理解しようとしている。（関心・意欲・態度）</p> <p>▼努力を要する生徒への手だて</p> <p>→続きを考える前にもう一度ドラマの内容を振り返らせる。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班が考えたドラマの続きを発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班の発表を見ながら、他のグループの考えとの違いを見つけることで、家族の関係はさまざまであり、どの家庭も課題を解決するために工夫が必要であることに気付かせる。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○さおりの家族を実際に演じた時の気持ちや、各班の発表を聞いて感じたことをまとめる。（ワーク3）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分自身の身近な問題としてとらえさせ、相手の立場になって考えることの大切さに気付かせる。</li> </ul>

10	<p>○家族と一緒に生活していく上で大切なことは何か、家族の一員として自分ができることは何かをまとめ、発表する。 (ふりかえり)</p>	<p>○各自の家庭について振り返らせ、家族関係をよりよくするためにどんなことに注意したらよいかという考えが深められるよう支援する。</p> <p>☆家庭や家族の基本的な機能について理解している。(知識・理解)</p> <p>▼努力を要する生徒への手だて →家族だからどんなことを言っても、何をしてもよいわけではないことをアドバイスする。</p>
----	--	--

#### 4 指導上の留意点及びワークシートの活用について

- ワークシート1は、自分の家族について考える導入部分として、このプログラムを実施する前に使用してもよい。または本時の中で時間的に余裕があれば、自分ほどのくらい家族について知っているのだろうかという、振り返りとして使用することも可能である。
- ワークシートの活用については、プライバシーについて十分に配慮をすることが必要である。
- プログラム集13ページの資料の活用については、本時のまとめの時に参考として話題にしてもよい。

#### 5 資料その他（別の導入時のドラマの設定）

**登場人物** 父、母、佑樹（中学2年生）、由美子（小学5年生）、(母方のおばあちゃん)

**母**：「ただいま。あら、今日はみんな早かったのねー。」(と言いながら居間に入ってくる。)

**佑樹**：「遅いよ。早く夕食にしてよ。すげー腹減ってるんだ。」

**由美子**：「おかえりなさい、おかあさん。洗濯物、取り込んでおいたからね。」

**母**：「ありがとう、気が利くわね。助かるわ。」

**父**：(読んでいた新聞を置きながら)「おかえり。今日は仕事が早く終わったものだから、いつもより早く帰ってこられたよ。」

**母**：「急いで夕御飯作らないとね。佑樹も手伝いなさいよ。」

**佑樹**：「俺、部活で疲れているんだよ。あ、そうだ、おばあちゃんから電話があったよ。」

**母**：「急に何かしら…。」

**父**：「気になるなら電話した方がいいぞ。」

**母**：「そうね、電話してみるわ」

**母**：(電話をかける)「もしもし、お母さん、どうしたの。うん、うん、えー。それで大丈夫なの。うん、わかったわ。また後で電話するね。お大事にね。」  
(家族が心配そうに、電話をしている母の方を見る。)

**由美子**：「おばあちゃんどうしたの。何かあったの」

**母**：「今日おばあちゃん、階段から落ちて足を骨折してしまっただけなの。たいしたことはないって言うのだけれど…。しばらくは安静らしいのよ。心配だわ。」

**父**：「そうだな。もうおばあちゃんも若くはないしな。みんなで考えないと。」

**佑樹**：「えーそんな急に。僕のうち、いったいどうなるの？」